

第1回奈良県男女共同参画審議会でのご意見と対応

資料1-2

(1/2ページ)

分類		ご意見(要旨)	対応
全体	1	日本の男女共同参画の状況は、国際水準からかなり遅れを取っていると認識すべき。	「第1章1.計画策定の趣旨」に記載
	2	女性が経済的に自立できる社会にしていくことが大切	男性への経済的な依存に関する課題認識を「施策4-1.困難な状況にある家庭・個人への支援」に記載
	3	「戦う女性の姿が見えない。」家庭でも職場でも男性とともに、主体的にどう戦うのかを考えるべき。	男女がともに力を発揮できる社会をつくることをタイトル・基本理念に込めた
	4	次期計画には、ダイバーシティの考え方、障がい者や在日外国人の方などマイノリティに関する視点も入れるべき。	・「施策4.安心・安全な暮らしの実現」「施策5-5.人権尊重の理念に基づく多様性への理解促進」に記載
	5	コロナなど危機の時には秩序はゆがんだ形で現れる(差別が作られる)。	・コロナの影響については、「第1章1.計画策定の趣旨」にも記載
基本的な考え方	6	「主体的に選択して過ごす時間」の充実が、仕事や家庭生活にも好影響を生むという「ワーク・ライフ・シナジー」の考え方は新しい視点で良い。	ワーク・ライフ・シナジーの視点を「第1章1.計画策定の趣旨」「第3章 計画の大綱」に記載
	7	基本理念の、すべての「女性の幸せ」というフレーズに違和感を感じる。「幸せ」は測定するのが難しい	・基本理念は「男女」の記載へ修正 ・幸せに関する評価指標として「ワーク・ライフ・バランスの優先度の希望と現実の一致割合」「仕事と生活の満足度」を設定(第3章4.評価指標)
	8	意識を変える啓発の段階より、例えば、管理職の人事評価において、部下の育休取得を評価するなど、制度を作って変えていく段階に入っている。	・制度化を意識して施策をすすめることを「第3章 3.目標達成に向けたプロセス」に記載 ・県の職場においても、今年度改定する特定事業主行動計画の議論の中などで制度化の検討を進める
	9	ライフ1とライフ2をどのように区別するかは課題	はっきりとした区別は難しいものの、質的転換も含めてライフ2の充実を促す
	10	ライフ2はどのようなアピール(施策)を考えるのが見えにくい	「推進施策3.男女ともの暮らしの充実」に記載

第1回奈良県男女共同参画審議会でのご意見と対応

(2/2ページ)

分類		ご意見(要旨)	対応
課題	11	県北・県南などの地域の生活パターン別に分析してみるとより実態が見えるのではないかと。	地域ごとの女性の就労状況についての分析は行ったが、具体的な施策は今後検討
課題・施策	12	固定的性別役割分担意識はなかなか変わらないが、若い世代の意識は変わってきていると感じる。幼少期からの男女共同参画の意識づけで徐々に社会に浸透していくことが大切である。	「施策5-3.幼少期からの男女共同参画教育の推進」に記載
	13	女性は正規・非正規で差が大きい。女性の正規職員を増やしたいのか、非正規でもいいから働けるようにしたいのか、格差を是正したいのか(が見えにくい)。女性・男性をひとくくりにして考えないようにしてほしい	「推進施策1 多様性を重視した、誰もが働きやすい環境づくり」の中で、再就職希望の方、働く中でキャリア継続・キャリアアップしたい方など女性の状況をいくつかに分け、それぞれの施策を記載
	14	取るだけ育休という事例もあり、男性の育休についてアンケートを実施してみるのもよいのでは。	県庁職員アンケート(R2実施)を「第2章 2.男性の働き方・暮らし方」に記載
施策	15	コロナの影響によってテレワークが進みつつある。そこに女性の活躍が進むとか、長時間労働の是正といった期待もある一方、女性の家事・育児負担の増加などの懸念もある。次期計画の中では、課題解決につながるテレワークの導入方法について示してほしい。 (相談窓口を充実させてほしい、テレワークできる業種とできない業種を分けて議論してほしい)	「施策1-1.男性中心型労働慣行の是正と多様な働き方の推進」に記載
	16	ライフ1とライフ2に関して、意識を変えていくための教育や啓発が必要。家事・育児も負担を感じるのではなく、男女を問わず楽しいと感じられるようになる(ライフ1をライフ2に転換する)仕掛けができないか。	「施策2-1.男性の家事・育児等への参画促進」を推進していく際に検討
	17	県内の男性は通勤時間が長いので、県内での働き先を作っていくことが重要。安心して住める町を作るという視点も入れてほしい	「施策4-4.防災・防犯分野における男女共同参画の推進」に記載